

演習① ピアサポートの理解

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- 障害領域ごとの歴史や背景、障害領域ごとの大切な視点を学ぶことで、ピアサポートの基本的な意義や効果を理解する。

設問

1.あなたの考えるピアサポートやあなたのストレングス（強み）について、自己紹介を交えながら話し合ってみましょう。

回答例

「人の話を聞くことが好きです。当事者の話をじっくり丁寧に聞いて、悩みを引き出し一緒に考えることができると思います。」

「ピアサポーターとしてカウンセリング業務に従事しています。同じ経験をしてきたからこそ当事者に寄り添い、無理なく『本人のやりたいこと』を一緒に探ることができるのが、自分の強みだと考えています。」

想定される懸念



障害者

1-1.「ピアサポーターとしての経験が浅く、周囲にピアサポーターの先輩職員もいないので、自分に何ができるのかイメージが持ちづらいです」



専門職

1-2.「この研修を通じてピアサポートの意義を学んでから、ピアサポーターの雇用に向けて検討しようと思っているので、話すことがありません…」

ファシリテーターとしての対処法

1-1.「人によって活かせる経験、強みは様々です。他のピアサポーターの経験談を参考に、研修を通じて自分なりのピアサポーター像を一緒に考えましょう」

1-2.「専門職の方には、『支援者としての経験や専門性を活かして、適切なサポートの方向性を提案できる』という強みがあります。その強みは、ピアサポーターと協働して当事者へのサポートを行う上で不可欠なものです。」

ファシリテーターのポイント

最初なので、自己紹介を通じて、グループメンバーがお互いを知り合う場
障害者としての経験・支援者としての経験、様々な経験がピアサポーターに生きるということ
を説明し、ピアサポーターとして経験の浅い者にも自身の強みを考えてもらう・正解があるわけではないので、あらゆる意見を受け入れる

演習② ピアサポートの実際・実例

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- それぞれの障害領域におけるピアサポーターの歴史を踏まえつつ、多様な障害領域のピアサポート活動を理解する。

設問

さまざまな障害領域で、ピアサポートが実践されています。具体的にピアサポートが活用される場所や方法は異なりますが、共通しているのは、経験を活かして活動する点です。

- 1.ピアサポーターの方は、自分の経験を振り返り、自分の体験の活かし方についてグループで話し合ってみましょう。
- 2.専門職の方は、経験を活かして活動するピアサポーターとどのように効果的に協働できるか考えてみましょう。

回答例

「1.長期入院から地域生活に戻った自身の経験を活かして、悩みを聞いたり一緒に退院後のアパートを探したりと、地域移行支援に携わっている」(ピアサポーター)

「2.どんなサポートや声掛けをもらって良かったかなど、ピアサポーターの言葉は大変貴重な情報であって、会議の場でも対等の立場で意見交換している」(専門職)

想定される懸念



障害者

1.「ピアサポーターとしての経験がないので、話せることがありません…」



専門職

2.「周囲の専門職が、ピアサポーターとの接し方に悩んでしまい、両者の間に溝ができてしまいがちです」

ファシリテーターとしての対処法

1.「活かせるのは、ピアサポーターとしての経験だけに留まりません。障害とともにある生活やリカバリーに至った経験だって、当事者へのサポートに重要な要素です」

2.「当事者にしかわからない経験談を語るができるピアサポーターは、伴走型支援のスペシャリスト。適切なサポートの実現という目的は共通です。互いが遠慮しすぎず、意見を言い合える場づくりをしていきましょう」

ファシリテーターのポイント

講義で様々なピアサポートの実際・実例を聞いた感想について話し合う時間を設ける。それから、ピアサポーターには、障害とともに生きてきた自身の経験の振り返りを促し、経験を語ってもらうことから始める。専門職には、ピアサポーターとの協働の意義を理解してもらう。

演習③ コミュニケーションの基本

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)
(メッセージについての補足説明資料は、別途用意します)

獲得目標

●ピアサポートの視点を取り入れたコミュニケーション技法や経験の共有により、ピアサポートでのコミュニケーションの基本や大切さを理解する。

設問

「あなた」を主語にする伝え方は、相手を決めつけて、ぎくしゃくしがちです。「私」を主語にすることで、「あなた」が取っている行動が「私」にどんな気持ちを引き起こすのか、相手に気付かせ気持ちを受け止めてもらいやすくなります。信頼関係を構築できる伝え方を意識しましょう。1.次の「あなた」を主語にする伝え方から「私」を主語にする伝え方に変えてみましょう

(例文) あなたは事前連絡なしに約束の時間に来ないなんて、非常識だ。

回答例

「あなた」が主語：
「あなたは事前連絡なしに約束の時間に来ないなんて、非常識だ」

↓ <CHANGE! >

「私」が主語
「私は約束の時間にあなたが来なくて、事故にでもあったのかととても心配になりました」

想定される懸念



1-1.「『私』を主語に変えるということは、当事者とのコミュニケーションに当たっては、自分の意見を押し通す姿勢が大事なのですか？」



1-2.「障害者の方が、なかなか心を開いて話をしてくれません…」

ファシリテーターとしての対処法

1.「そうではなく、『私』を主語にする伝え方は、言われる側が指摘や相手の気持ちを受け止めやすくなるための一つの手段です。障害者の方が話をしている時は、あくまで傾聴の姿勢を心がけましょう」

1-2.「不安や緊張を抱えた経験のあるピアサポーターの協力を得て、焦らず信頼関係を築きましょう。講義で学ぶ傾聴の姿勢や環境づくりも大事です」

ファシリテーターのポイント

信頼関係を構築するためのコミュニケーション手法を、参加者に学んでもらう。ワークの趣旨を理解して、自分の気持ちに焦点が当てられるとベスト。

演習は「練習」であって上手い下手はない。やってみることが大事。出された意見に対して、ファシリテーターは肯定的にフィードバックする。

演習④ 障害福祉サービスの基礎と実際

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- 障害福祉施策の歴史や障害福祉施策の仕組みを学ぶことで、ピアサポーターが雇用される障害福祉サービスの歴史や現状、その仕組みなどを理解する。

設問

1.障害福祉サービスにおいて、ピアサポートがどのように活用されるのか、話し合ってみましょう。ピアサポーターの方は「どんな活躍の場があるか」、専門職の方は「どんな雇用のあり方があるか」という視点で考えてみましょう

回答例

- ・「身体障害の当事者の方の地域移行を支援するピアカウンセラー」（相談支援事業所）
- ・「精神障害の当事者の方の自宅に訪問して家事援助や介護をするピアヘルパー」（居宅介護事業所）

想定される懸念



障害者

1-1.「演習②『ピアサポートの実際・実例』での話と同じになってしまいます…」



専門職

1-2.「ピアサポーターの活躍の場は、障害福祉サービス事業所・施設以外にもあるのでしょうか？」

ファシリテーターとしての対処法

1-1.「具体的な『障害福祉サービスの提供』の場面を想定して話してみましょう」

1-2.「障害福祉サービス事業所・施設以外にも、医療機関や行政などでピアスタッフと活躍される場合も想定されます。また、ピアサポーターの強みは、障害福祉制度の中だけで活かされるのではなく、インフォーマルな社会資源にも活かしてもらいたいと考えております」

ファシリテーターのポイント

障害福祉サービス事業所・施設の中で、ということ意識してもらう

演習時間が20分間と短いので、参加者にまんべんなく話を聞く時間配分が重要

演習⑤ ピアサポートの専門性

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- ピアサポートの具体的な専門性や倫理と守秘義務を学ぶことで、ピアサポートの専門性を理解する。

設問

- 1.ピアサポーターの大切な強みについて、どう思いますか。講義で学んだことを踏まえて、あなた自身の考えをお話ください。
- 2.ピアサポーターと専門職と一緒にサポートすることについてどう思いますか講義で学んだことを踏まえて、あなた自身の考えをお話ください。

回答例

- 1.「経験を活かして当事者によって心強い味方であり、人生のロールモデルとなることができる」
- 2.「それぞれの強みを活かして、一緒により広いサポートができる」

想定される懸念



障害者

1.「ピアサポーターには障害者としての経験があるので、あえて専門職と協働する必要性は感じられません…」



専門職

2.「ピアサポーターが遠慮がちでなかなか歩み寄ってもらえません…」

ファシリテーターとしての対処法

1. (想いを受け止めた上で、)「ピアサポーターだけではサービスに限界があるので、よりよいサービス提供に向けて専門職と協働していきませんか」

2.「(他の受講者の意見も聞いた上で、)ピアサポーターと専門職は同じ目標に向かう対等な立場としての協力者なのだということを、ゆっくり理解してもらいましょう」

ファシリテーターのポイント

ピアサポーターの可能性を受講者自身に言語化してもらう

ピアサポーターと専門職の協働の重要性を再認識してもらう

基礎研修の最後の演習なので、講義で学んだことを各受講者が咀嚼できているか確認 20

演習① ピアサポーターの基礎と専門性

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- リカバリーの経験がピアサポーターの専門性の基盤であることを知る。その上で、経験に基づいた「傾聴」「共感」「受容」といった専門性を発揮し、当事者とのより「対等」な関係性を構築することで、ピアサポーターとしての支援の幅と質を高める。

設問 (事前に各受講者にて振り返りの個人ワーク)

1. 経験について振り返り、グループの皆に共有しましょう。
また、グループ内の他の人の話をしっかりと受け止めましょう。
(例) 障害によって感じた困難、その時周りにはどんな風にしてほしかったのか、一步踏み出すに当たってのきっかけ
2. 人生の困難は、病気や障害に関わらず、誰にでもあるものです。障害の有無に関わらず、自身の経験を振り返りグループの皆に話してみましよう。また、グループ内の他の人の話をしっかりと受け止めましよう。

回答例

1. 初めて障害を意識させられた経験や、周囲との壁を感じた経験、経験を乗り越えてありのままの自分らしく人生を歩めるようになったきっかけ 精神疾患を患うこととなった経緯、どん底だった時の気持ち、リカバリーに踏み出すきっかけとなった周りからの言葉、リカバリーの道のりなど
2. 失恋・離職・ペットロスなど

想定される懸念



障害者

1.「今でも思い出すのが辛い経験もあるので、自分の体験談をありのまま語ることに抵抗があります」



専門職

2.「専門職が障害とは関係のない経験を語ることに、意味はあるのですか？」

ファシリテーターとしての対処法

1.「『今でも思い出すのが辛い』ことは秘密にしてください。何でも情報開示することがピアサポーターの役目ではありません。相手の状況によって響く言葉は異なるので、利用者のためになることを、その時々で意図的に経験として伝えることこそが重要です。逆に話を聴く時は、寄り添い受け止める姿勢を意識しましょう」

2.「困難からのリカバリーを語る上では、障害の有無を問いません。この演習では、経験を語り合う・受け入れ合うとの体験をすることで、『自分だけではない』という安心感や『自分も困難から一步踏み出そう』という希望がもたらされる、という空気感を共有してみましよう」

ファシリテーターのポイント

語る方の勇気と、その人の人生に敬意を持って聴く。評価・批判をせず、受容的な態度で聴く。「当事者に対しては、相手の状況をよく観察して、相手に合うであろうリカバリーの経験の引き出しを使えると良い」ということを伝えていく。

演習② ピアサポートの専門性の活用

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- ストレングスなどの重要な視点を確認した上で、自身の経験の効果的な伝え方を学ぶことで、ピアサポートの専門性の活かし方を理解する。

設問

<事例を通じたディスカッション>

～～以下、ディスカッション時の視点（参考）～～

- ・ Rさんはどういう人でしょう。想像してみましょう。
- ・ RさんのストレングスとRさんの環境のストレングスを見つけてみましょう。
- ・ Rさんの思いに寄り添いながら、Rさんにはどんな支援が必要か考えてみましょう。
- ・ Rさんに伝えたいあなたの経験を考えてみましょう。

ディスカッションを円滑に進めるために

ファシリテーターからの

「振り」の投げかけ（例）

- ・ 「正解は1つとは限りません。みんなで自由に意見を出し合ひましょう！」
- ・ 「Rさんの思いがなんなのか、どこにあるのか気が付くのが大事なポイントです」
- ・ 「自由にこれまでのご経験をお聞かせください。失敗談だって1つの大事な経験です」
- ・ （ピア・専門職それぞれで意見が出たら）
「ピアの立場からはそうですね。専門職の立場からそういう考えも出ますね。他の人はどう思いますか？」

想定される懸念

障害者



「長い事例をいきなりを出されても、すぐに理解することは難しいです」

対処法

- ①（事務局）事例の時系列や登場人物を、文章だけではなくフロー図や人物相関図にして、わかりやすく示す。
- ②（事務局）受講者が、事例を事前に読み込めるように、資料の事前配布
- ③（ファシリテーター）当日、受講者の事例への理解度を確認しながら、意見交換を進める。

ファシリテーターのポイント

当事者の状況に応じた適切な支援(*)のあり方や経験の引き出しの選び方を、グループと一緒に考える。
*（可能であれば）インフォーマルな支え合いの場・機会への想像力も働かせられると良い。

演習③ 関連する保健医療福祉施策の 仕組みと業務の実際

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- ピアサポーターは多様なサービスにおいて配置されているが、どのような障害福祉サービスがあるのかを具体例を通して理解する。また、それぞれの事業において、ピアサポーターがどのように活躍しているか、活躍ができるかを検討する。

設問

1. 「自分だったら、これまでの経験を活かしてこの機関（事業所）で働いてみたい」というところがありますか？
2. 自分自身が利用したことがなかったり、あまり知らないサービスについて、詳しく知るにはどうしたら良いでしょうか？グループ内で情報を共有してみましょう

回答例

1. 「相談支援事業所で、身体障害の当事者の方の地域移行に従事してみたい。」「居宅介護事業所で、精神障害の当事者の方の自宅に訪問して家事援助や介護を経験してみたい。」
2. 自治体窓口・HPでの情報公開・会議傍聴
実際に制度を使っている当事者・ピアサポーターからの直接の情報提供など

想定される 懸念



障害者

「グループ内に同じ障害領域/サービス事業所の人がないので、あまり参考にならないと思うのですが…」

ファシリテーターとしての対処法

「自分自身が利用したことがなかったり、あまり知らないサービスについて知る良い機会と捉えていただければと思います。ピアサポーターにとっては自分自身の活躍の場を広げるきっかけになるかもしれませんし、当事者の方から問い合わせを受けた時に対応できるヒントになるかもしれません。」

ファシリテーターのポイント

参加者それぞれの業務の実際を語ってもらい、多様な障害福祉サービスでピアサポートが活用されるように、情報交換の場として活用してもらう。

演習⑤ ピアサポーターとしての働き方

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- 労働者としての権利の行使や支援者として働くに当たっての倫理について、具体的事例を通して考える。

設問

講義で聞いた内容に関連して、過去に実際に困ったことはありましたか？また、その時、どのように解決しましたか？

【労働者としての権利の行使】と【支援者として働くに当たっての倫理】のそれぞれについて、話し合ってみましょう。

【労働者としての権利の行使】ディスカッション例

- ・ピアサポーターとして働いてすぐに自分の強みを活かした役割をもらえないと感じてしまった人がいたら…
どうすれば良い？当事者のピアサポーター・周囲の職員それぞれの視点で考えてみましょう

【支援者として働くに当たっての倫理】ディスカッション例

- ・利用者のGさんから「誰にも言わないで」と前置きされたうえで、他の利用者に数万のお金を貸していることを相談されましたら…
- ・同僚で守秘義務違反をしている職員がいたら…

回答例

- ・労働者としての権利や倫理に関する適切な知識を持っておくことが大切
- ・ピアサポーターと管理者間など、職員間でのコミュニケーションを日頃からしっかりと取って、お互いに信頼関係を築き、困ったことがあったら相談できる職場づくりしておくことが大切
- ・いざという時に相談できる行政窓口も押さえておきましょう（労働基準監督署など）

想定される懸念



障害者

「初めて働くので、ピアサポーターの方の働き方について、イメージを持ちづらいです」

対処法

- ①（事務局）ピアサポーターの実際の働き方を、わかりやすく示す。
- ②（事務局）受講者が、事例を事前に読み込めるように、資料の事前配布
- ③（ファシリテーター）当日、受講者の事例への理解度を確認しながら、意見交換を進める。

ファシリテーターのポイント

講義で学んだ「労働者としての権利と法律」と「倫理基準」の内容に立ち返りながら、グループ内で意見を出し合い適切な対応を検討できるようファシリテートする。

演習⑥ セルフマネジメントとバウンダリー ～ピアサポーターが葛藤しやすい状況～

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- 自分自身と向き合うことの大切さと自分自身を大切にすることの意味を再認識する。過去の失敗などを通して、ピアサポーターとして働くことで陥る葛藤ややりがいを共有し、対応について一緒に考える。

設問

1. 自分の障害、病気や薬を理解するためにしている方法は何でしょうか？
2. あのととき他者との適切な境界線と距離感（バウンダリー）を意識していればよかったとふりかえることはありますか？

回答例

1. 「研修やワークショップへの参加を通じて、職場外でも当事者同士の繋がりを持つ」
「インターネットや書籍からの情報収集」
2. 「利用者から金銭上の悩みを相談され、ついお金を貸してしまった」
（⇒素早く職場の上司に相談するなど、適切な対応を取ることが必要です）

想定される懸念



障害者

2.「自分は当事者の気持ちがとても良く分かるし、経験を活かして寄り添いたいと思っているので、境界を引くなんて冷たい対応はできません…」



専門職

2.「バウンダリーを意識すべき具体的な場面を想像しにくいです…」

ファシリテーターとしての対処法

2.「バウンダリーは、他人の問題を自分の問題にしないため、他人がやるべきことを自分が背負わないために、意識すべき大切な考え方です。『私』と『あなた』は別の人間で、異なる価値観を持っている、ということを前提に、尊重し合える関係性を築きましょう。」

2.「どんな時に、日常や仕事の人間関係でジレンマを感じますか？」

ファシリテーターのポイント

バウンダリーは、ピアサポーターだけでなく日常や仕事の人間関係を維持する上でも役立つことを認識してもらおう。バウンダリーは、いつも同じとは限らず対人関係によって変化する（共通解はない）ものであるということを知ってもらおう。

演習⑦ チームアプローチ

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- チームとは何か、また、チームの一員としてピアサポーターが働くために留意することや役割について学ぶことで、所属機関（チーム）におけるピアサポーターの役割と協働における留意点を理解する。

設問

1. ピアサポーターが協働するチームの構成員について考えてみましょう
2. チームによる支援において、ピアサポーターが他の職種の専門職と協働していくために、どのような工夫をしていくことが考えられますか
3. チームにおけるピアサポーターの役割について考えてみましょう

回答例

1. 相談支援専門員、サービス管理責任者、同僚の専門職、看護師などの医療スタッフ など
※障害領域などに応じて様々なチーム構成が考えられる
2. 専門性を相互に理解し尊重すること、情報を共有し合い利用者に対する共通の理解を持つことなど
3. 「障害や病気の経験から得た生活の知恵を、利用者本位の支援に活かす役割」

想定される懸念



1. 「支援者としての経験の浅い自分が、一人の専門職として活躍できるか不安です…」



2. 「チームで働く上で、周囲の専門職が気を付けることは何でしょうか？」

ファシリテーターとしての対処法

1. 「当事者としての今までの経験を、ピアサポートに活かすことができます。」

2. 「たとえば、利用者が自らの希望を表明したり支援を選択したりする機会を作り、ピアサポーターと一緒に当事者本位の支援をすること。それから、極力職場の一部の人にしかわからないような専門用語を多用することを避けること。ピアサポーターと専門職との協働に向けて必要なことを、皆で一緒に考えてみましょう。」

ファシリテーターのポイント

当事者のための適切な支援に繋がる協力関係を皆で築けるよう、講義で学んだチームワークの意義やそれぞれの役割を振り返る。

演習③

ピアサポートを活用する技術と仕組み

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- ピアサポーターにとって働きやすい職場とはどのような職場なのかを考える。一緒に働く職員にとって働きやすい職場とはどのような職場なのかを検討し、尊重しあえる関係性をつくっていくことの重要性を理解する。

設問

以下のような状況になるかもしれません。
なぜ、これらの状況に陥ってしまうのか、背景を考えてみましょう。
それから、そうした状況を未然に防ぐにはどうしたら良いか、そうした状況に陥ってしまった場合にはどうしたら良いか、意見を出し合ってみましょう。

(※ グループの状況を見ながら取り上げる課題は選択)

- ・ピアサポーターがいることで、利用者に対する愚痴を言いにくくなった(言いにくくなるのではないかと専門職がこぼしています)
- ・ピアサポーターがなかなか自分の意見を言ってくれません
- ・ピアサポーターと他の職員とで、意見が衝突しました

ディスカッションを円滑に進めるために

ファシリテーターからの

「振り」の投げかけ(例)

- ・ピアサポーターがなかなか自分の意見を言えない背景を考えてみましょう。

(たとえば…専門職に遠慮/委縮している? 守秘義務を破ってしまうのではと心配で相談できない?)

- ・ピアサポーターと他の専門職とで、考え方や立場の違いから意見が衝突することは十分に考えられます。衝突の原因を考えてみましょう

(たとえば…ピアサポーターは当事者視点・専門職は事業所全体又は地域全体としての視点で、同じ問題を捉えているのかも…)

想定される懸念



専門職

「ピアサポーターを事業所で実際に雇用していないので、対応策をイメージできません」

ファシリテーターとしての対処法

- ・ピアサポーターの導入前にも生じやすい課題、雇用前の事業所の専門職でもイメージしやすい課題から話し合う。
- ・実際にピアサポーターを雇用している事業所から順番に話を聞き、雇用前の事業所の専門職にはイメージを含ませてもらう。

ファシリテーターのポイント

講義内容(ピアサポーターが勤務先の職員に望むこと等)に立ち返りながら、「職場全体としてできること」に主眼を置いた建設的な話し合いとなるようにする。

演習⑤ ピアサポーターを活かす雇用

東京都障害者ピアサポート研修 ファシリテーター用手持ち資料(案)

(本スライドの内容は、研修実施に当たり、ファシリテーターを担っていただく方に手持ち資料として提供することを想定しています)

獲得目標

- ピアサポーターの雇用について調査結果や実践例を確認しながら現状を知る。

設問

以下の点について、グループで意見交換をしてみましょう。

- ・あなたの機関において、ピアサポーターと共に働く上での良い部分はどのようなことでしょうか。

回答例

- 講義内容に立ち返る。
 - ・利用者の本当のニーズを既存の専門家とは違った視点で考えられる。
 これから自分が何をしたらよいか分からない利用者に対し、モデルとなり説得力のある説明ができる。

 ストレングス思考、リカバリー思考の共有

 利用者仲間意識を共有しやすく、支援チームとの早期の関係性の構築に繋がることがある。
- 実際に雇用したことのある専門職に経験に基づく気づきを語ってもらう。

想定される懸念



専門職

「期待は持っているけれども、実際に上手くいくか不安です…」

ファシリテーターとしての対処法

「これまでの講義で聞いた内容から、振り返ってみましょう」
 ピアサポーターが活躍しやすい条件には、どんなことがあったでしょう？
 ピアサポーターと専門職が協働できる働き方をするために、雇用前に事業所ではどのような準備ができると思いますか？

ファシリテーターのポイント

講義で触れた調査結果や実践例を振り返りながら、ピアサポーターを雇用することによる期待されることを具体的にイメージしてもらう。